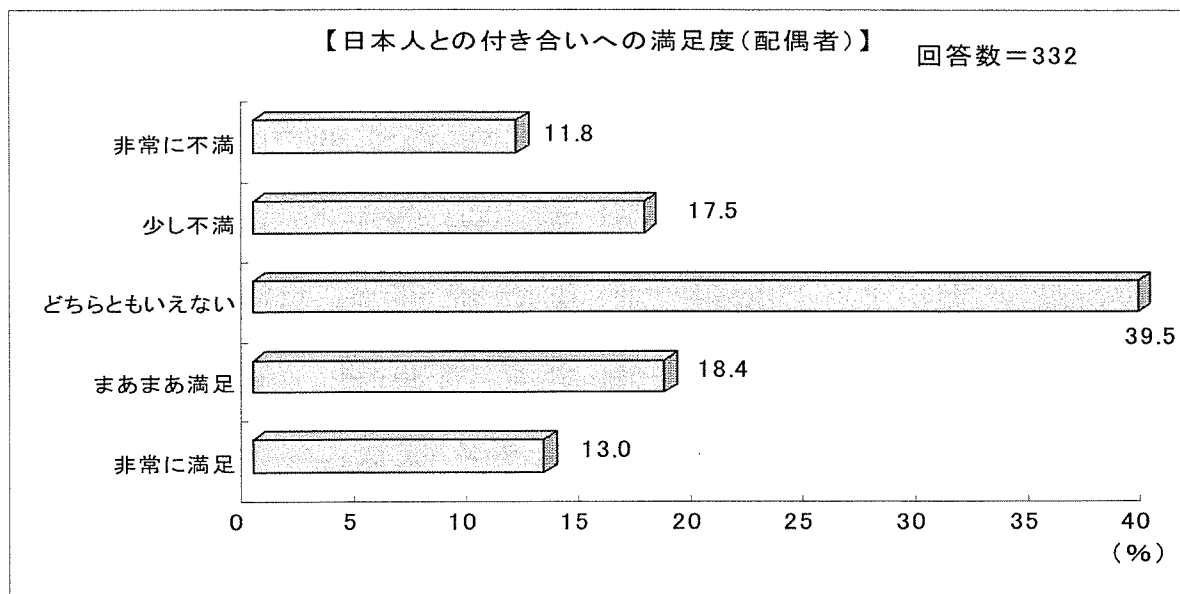
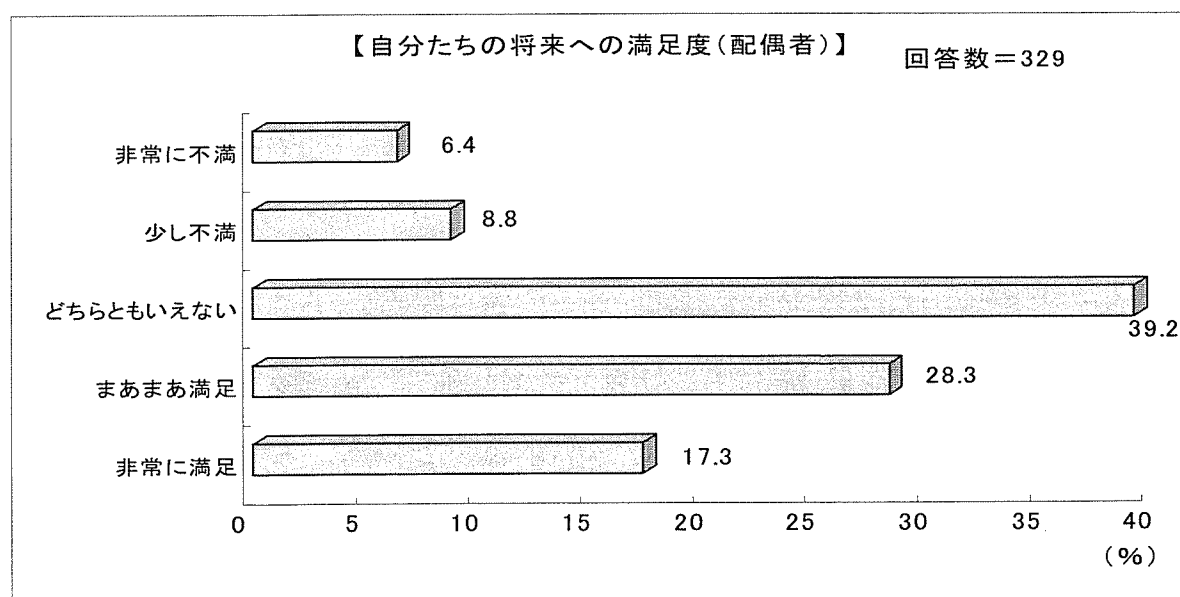


5-21. 日本人との付き合い（配偶者）（問 13）



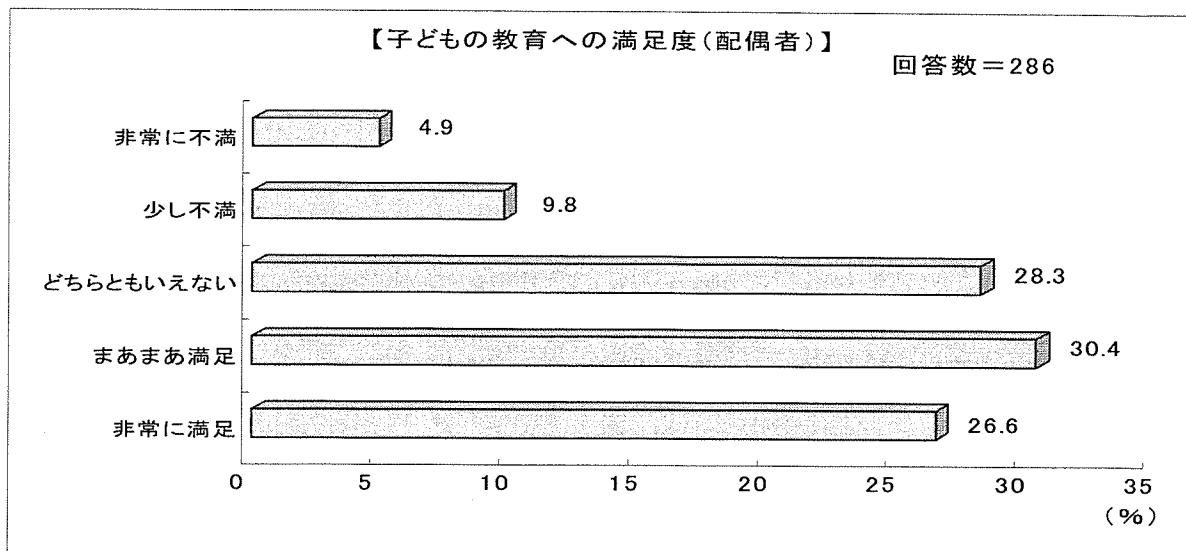
日本人との付き合いについては、「まあまあ満足」が 18.4%、「非常に不満」が 13.0%で、満足度の高いグループは全体の 31.4%を占める。「少し不満」は 17.5%、「非常に不満」は 11.8%で、合わせて 29.3%を占める。ここでも「どちらともいえない」を除くと、満足度の高いグループと低いグループは大きく二つに分かれる。そして、世帯主と比べると、配偶者の方が不満を持つ者の割合が高い。

5-22. 自分たちの将来（配偶者）（問 13）



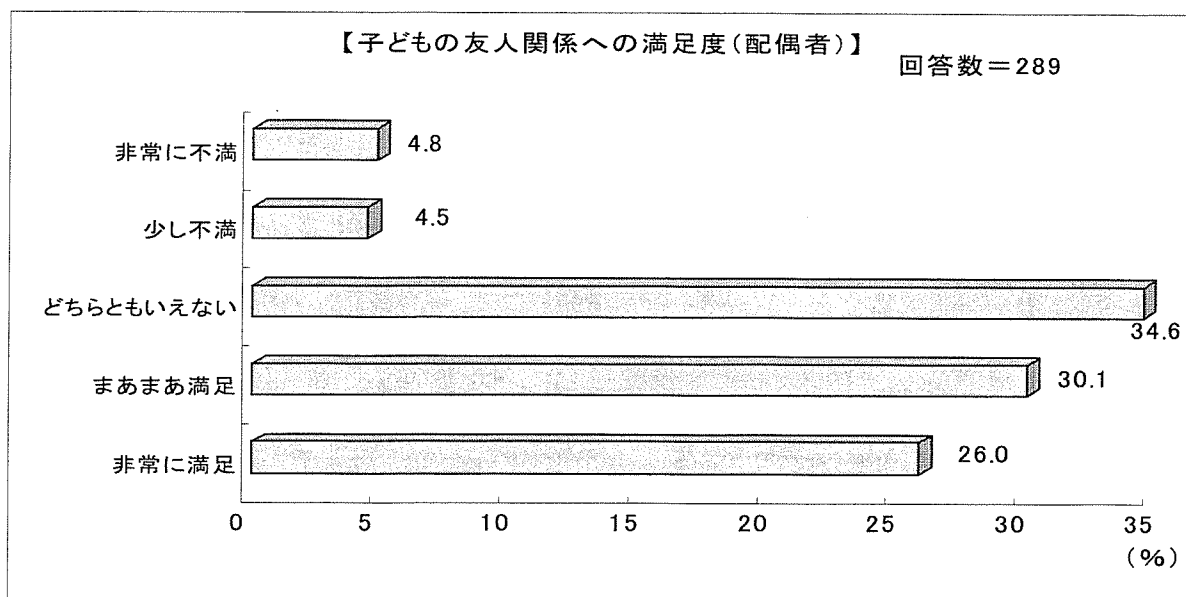
自分たちの将来に関しては、世帯主同様、おおむね楽観的である。「まあまあ満足」(28.3%)と「非常に満足」(17.3%)を合わせて 45.6%を占める。「少し不満」(8.8%)、「非常に不満」(6.4%)は、合わせると 15.2%を占める。自分たちの将来に関しても、世帯主より配偶者の方が不満を持つ割合が高い。

5-23. 子どもの教育（配偶者）（問 13）



世帯主同様、子どもの教育に関して満足度は比較的高い。「まあまあ満足」が 30.4%で、「どちらともいえない」(28.3%)を上回っている。「まあまあ満足」と「非常に満足」(26.6%)を合わせて57.0%が満足だと回答している。「どちらとも言えない」が28.3%を占めるが、それを除けば子どもの教育に不満を表明しているのは、「少し不満」の9.8%と「非常に不満」の4.9%で、合わせて14.7%である。

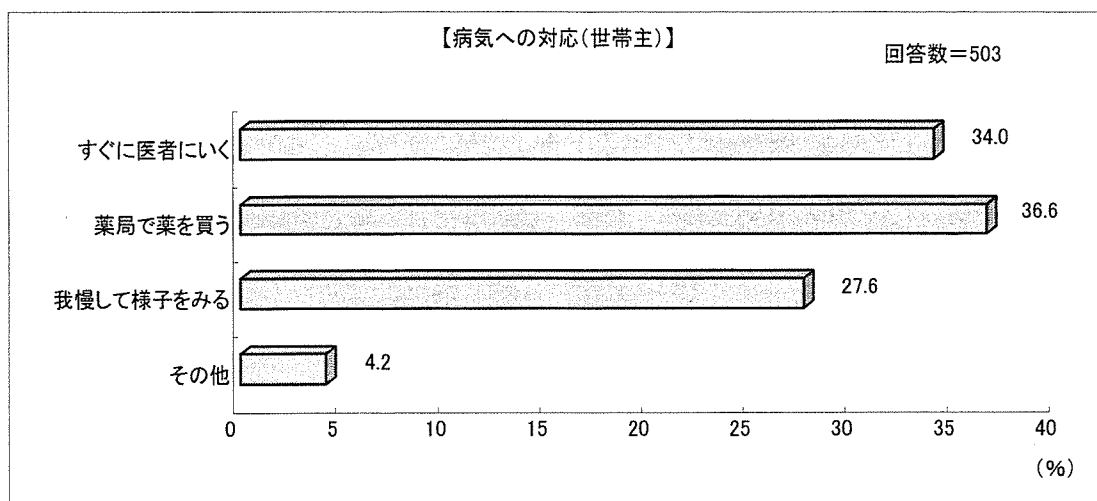
5-24. 子どもの友人関係（配偶者）（問 13）



子どもの友人関係に関しても満足度は高い。「まあまあ満足」(30.1%)、「非常に満足」(26.0%)を合わせて56.1%が、満足している。「どちらともいえない」が34.6%と世帯主に対する設問同様一番高いが、不満を表しているのは「非常に不満」(4.8%)、「少し不満」(4.5%)の合計9.3%である。子どもの友人関係に関しては、配偶者の方が世帯主よりも満足度が高い。

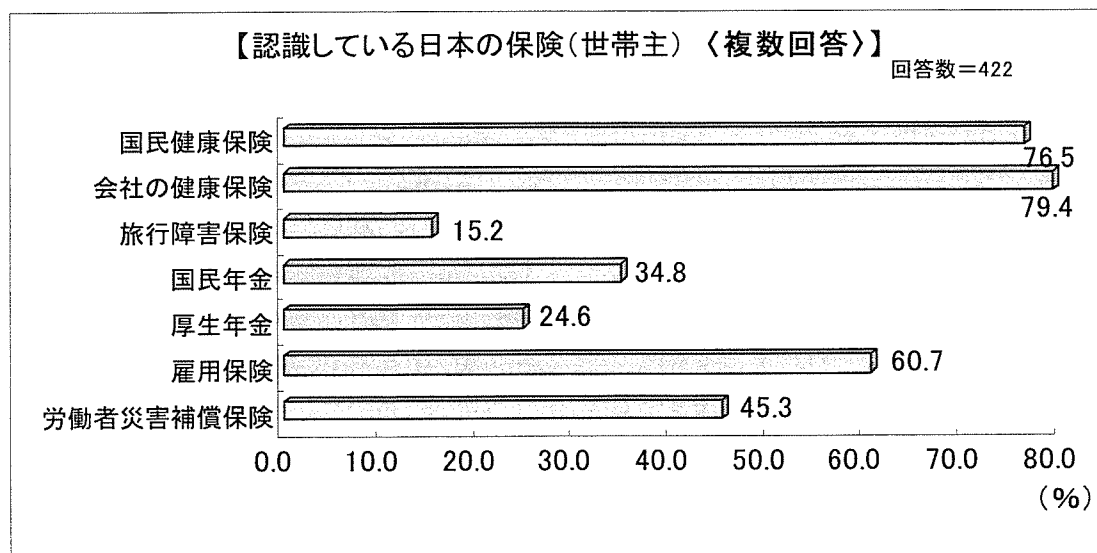
第6章 世帯主の疾病対処・健康保険・年金

6-1. 世帯主の病気への対応（問14）



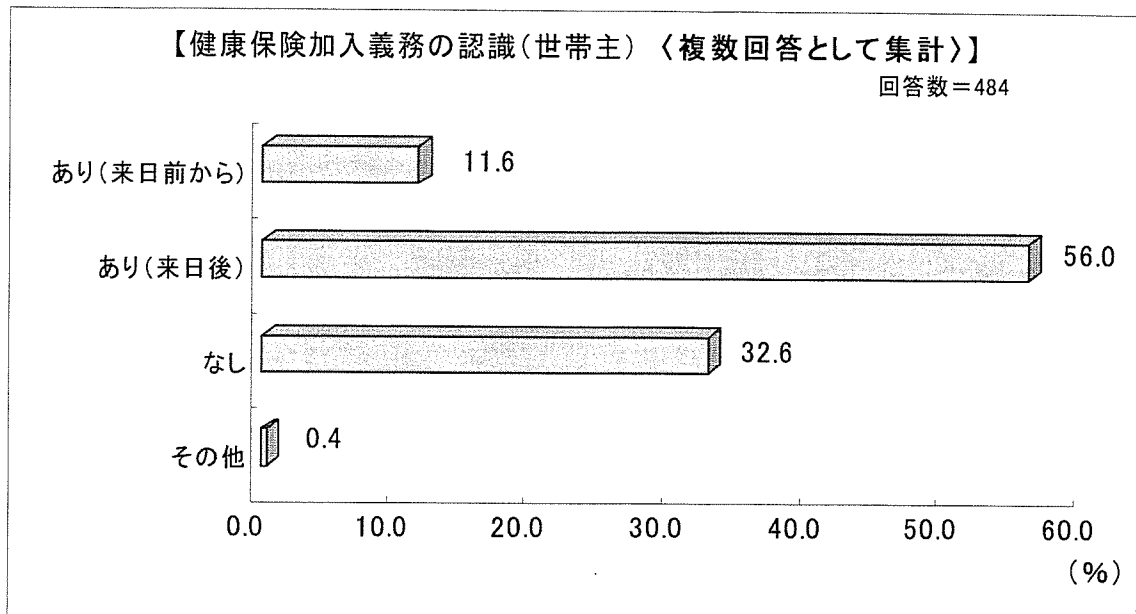
世帯主が病気をした際の対応としては、「薬局で薬を買う」(36.6%)が最多であるが、「すぐに医者に行く」(34.0%)と「我慢して様子を見る」(27.6%)が続いており、「その他」は4.2%にすぎない。2004年の磐田市調査でも同じ質問であったはずなのに、「すぐに医者に行く」が77.7%を占めていたので、ポルトガル語の調査票を比較したところ、今回調査で翻訳の際に「けが」が落ちていたことが判明した。また、前回調査では世帯主に限定されない形の質問であったことも回答の分布の違いに影響している可能性がある。

6-2. 世帯主が認識している日本の保険（問15）



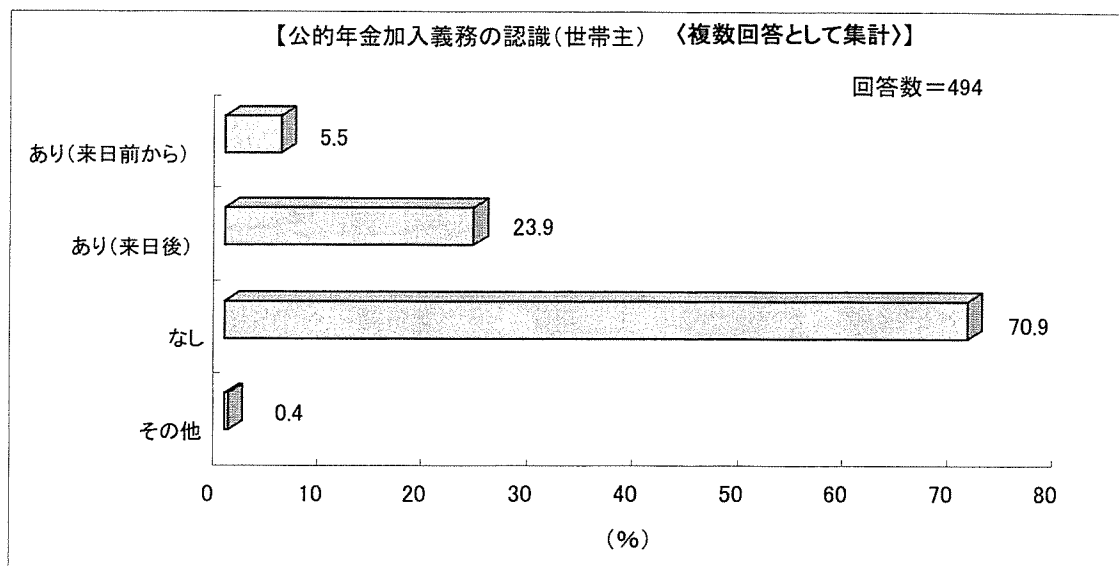
日本の保険のうち、世帯主の認知度がもっとも高いのは「会社の健康保険」(79.4%)と「国民健康保険」(76.5%)の公的医療(健康)保険である。次いで、高いのは「雇用保険」(60.7%)と「労働者災害補償保険」(45.3%)の労働関係の公的保険で、「国民年金」(34.8%)と「厚生年金」(24.6%)の公的年金は認知度が低い。民間医療保険の一種である「旅行傷害保険」(15.2%)はさらに認知度が低い、日本のものに限定しているためかもしれない。

6-3. 世帯主の健康保険加入義務の認識（問 16）



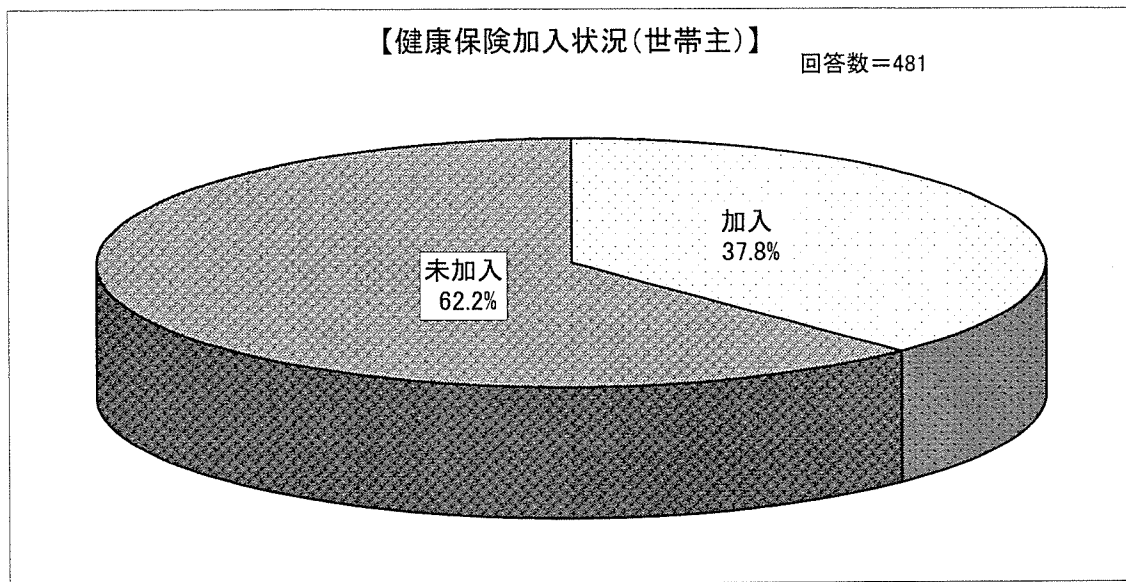
世帯主のうち、日本の公的医療保険に加入する義務があることを「来日前から」認識していた者は11.6%しかおらず、過半数（56.0%）の者は「来日後」、認識するようになっている。しかし、調査時に加入義務を認識していなかった者も約3分の1（32.6%）もいる。

6-4. 世帯主の公的年金加入義務の認識（問 17）



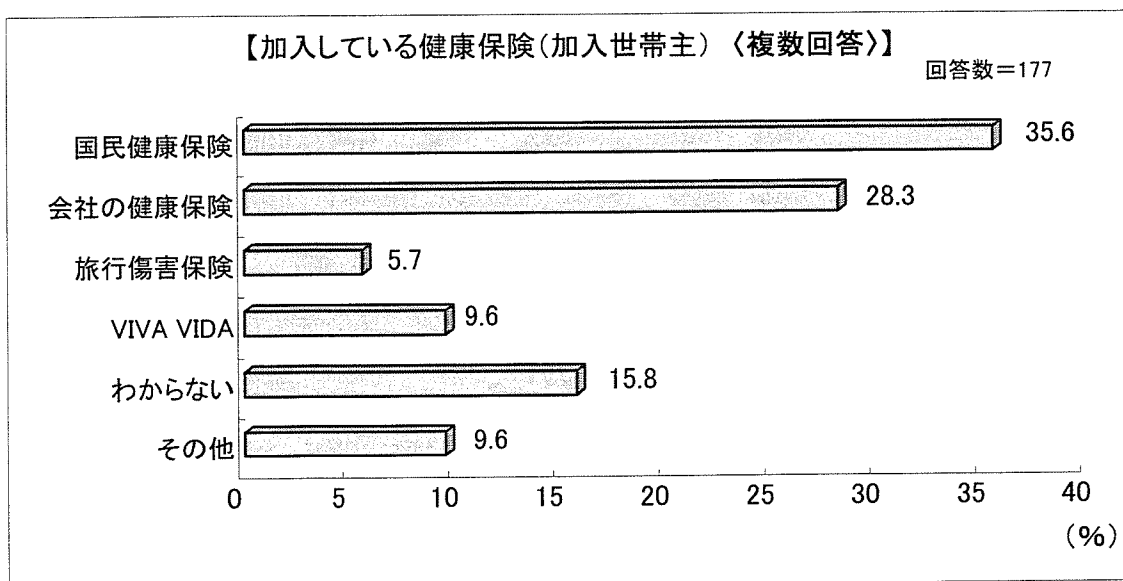
世帯主のうち、日本の公的年金保険に加入する義務があることを「来日前から」認識していた者は5.5%しかおらず、「来日後」、認識するようになった者も約4分の1（23.9%）に過ぎない。その結果、調査時に加入義務を認識していなかった者が多数（70.9%）を占めている。年金は健康保険ほど差し迫った必要がないためではないかと思われる。

6-5. 世帯主の健康保険加入状況（問 18）

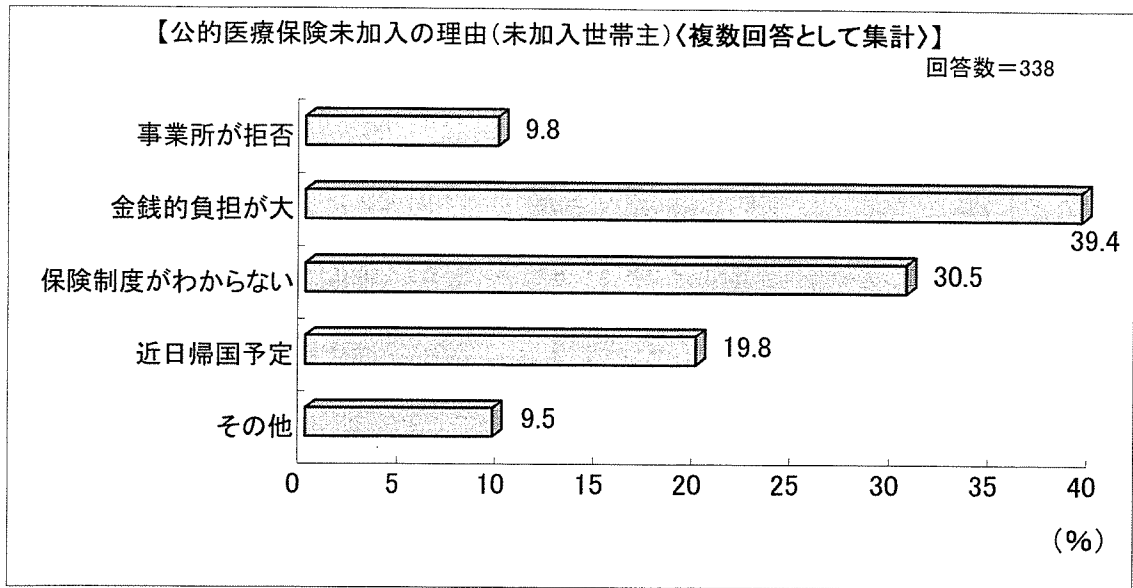


世帯主のうち、健康保険に「加入」している者は37.8%に過ぎないが、それでも2004年の磐田市調査の結果（28.3%）よりも高い。下図で加入している健康保険の内訳を見ると、「国民健康保険」に加入している者が35.6%、「会社の健康保険」に加入している者が28.3%と2004年調査の結果より水準が低いものの、2つの公的医療保険の加入者が多数を占めるが、第3位は今回新たに選択肢として加えた「わからない」（15.8%）で、第4位は新たに加えた「VIVA VIDA」（神奈川県大和市に本部がある在日外国人就労者共済会）と「その他」がそれぞれ9.6%となっており、「旅行傷害保険」（5.7%）が続く。加入率を考慮すると公的医療保険加入者が全体に占める比率は前回並なので、それ以外の保険（「わからない」を含む）への加入者が増えた結果全体として健康保険加入者の比率が高まったようである。

6-6. 世帯主が加入している健康保険（問 18）

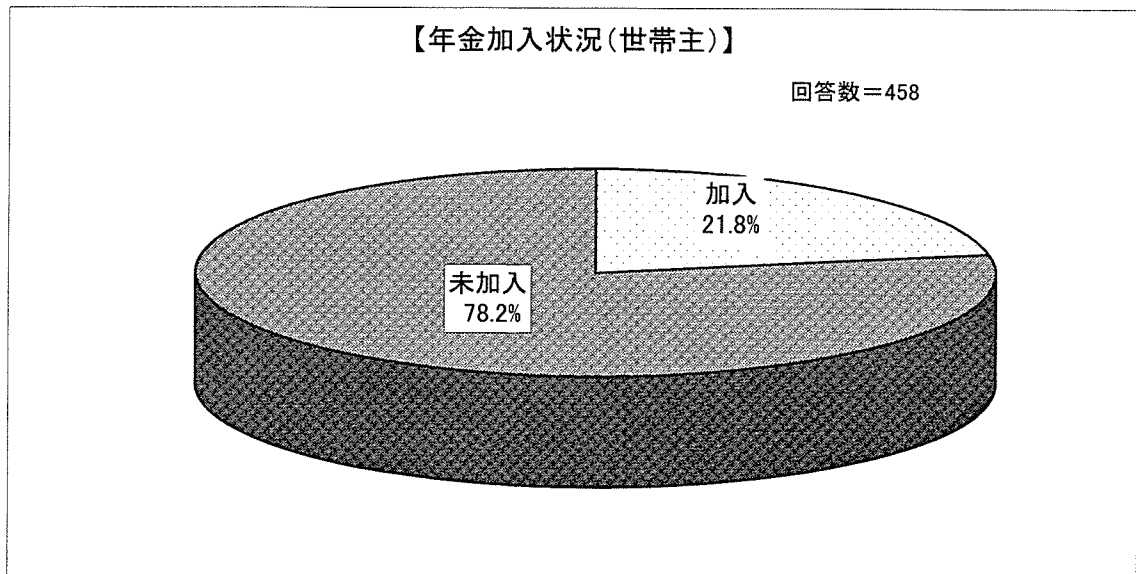


6-7. 公的医療保険に未加入世帯主の未加入理由（問 19）



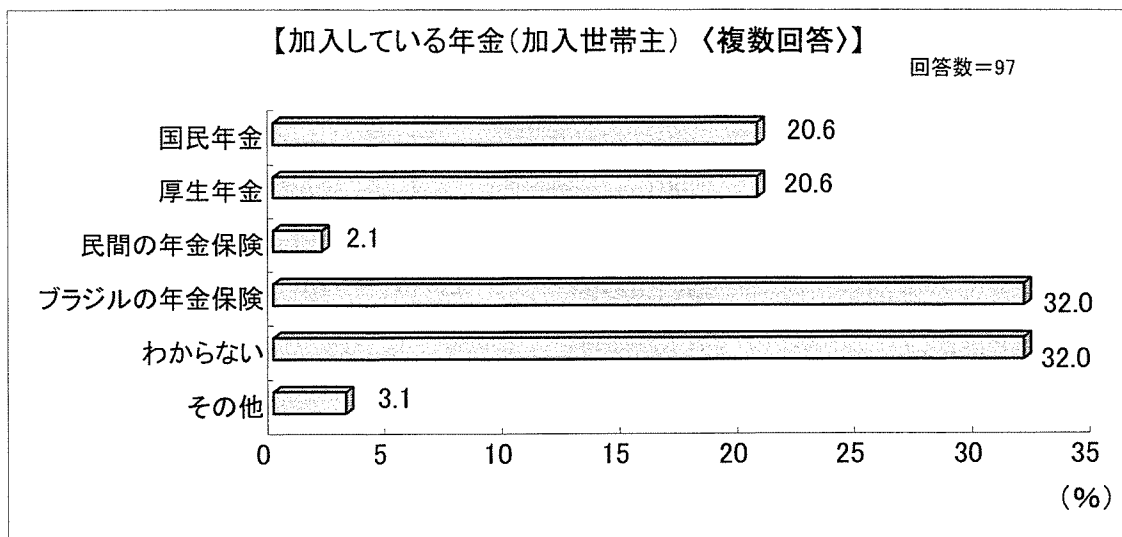
公的医療保険（国民健康保険・会社の健康保険）に未加入の世帯主が挙げた未加入理由としては、「金銭的負担が大きい」（39.4%）が最多で、「日本の保険制度がよくわからない」（30.5%）、「近日帰国予定」（19.8%）、「事業所で加入させてくれない」（9.8%）までほぼ1割ずつ低下していき、「その他」（9.5%）も最後のものとほぼ同水準である。2004年調査では2位だった「事業所」の比率が大幅に低下し、1位の「金銭的負担」の比率も低下している。

6-8. 世帯主の年金加入状況（問 20）



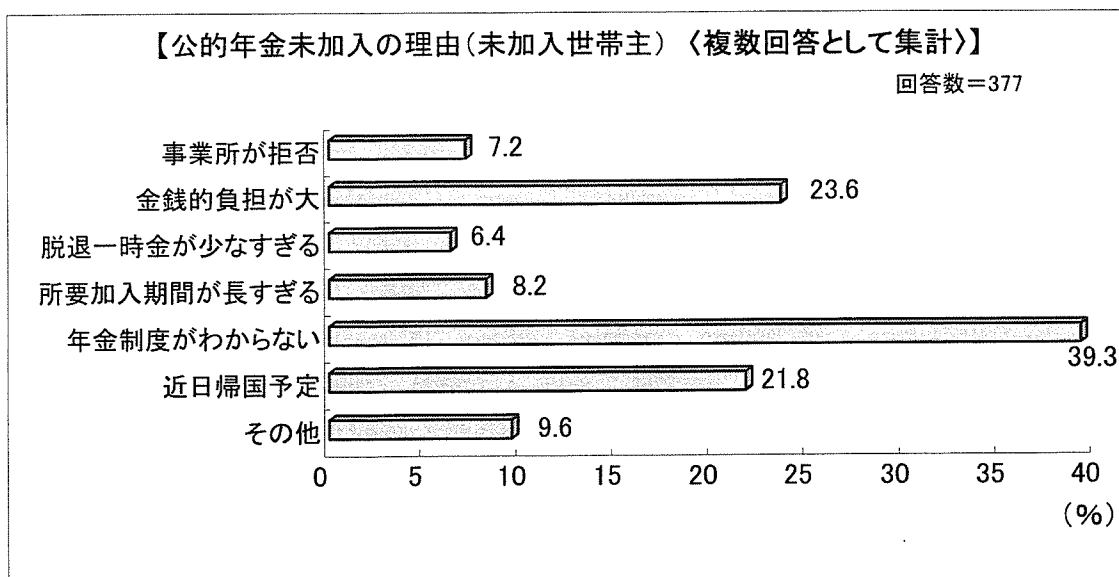
世帯主のうち、年金保険に「加入」している者の比率は健康保険（37.8%）の場合よりもさらに低く、21.8%に過ぎない。また、下図で見る通り、日本の公的年金保険（国民年金・厚生年金）に加入している者の比率はあまり高くない。

6-9. 世帯主が加入している年金（問 20）



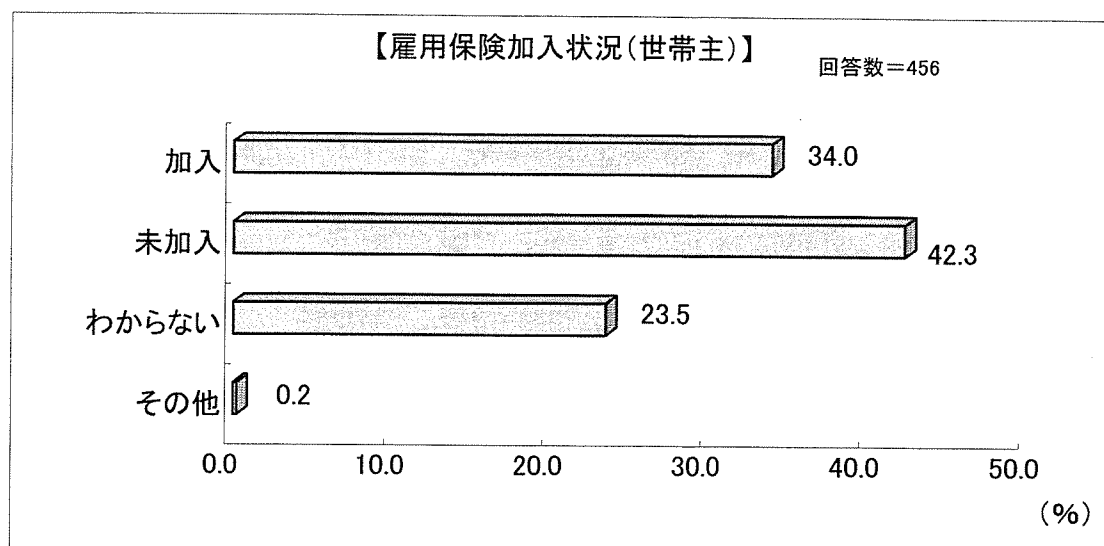
年金に加入している世帯主が加入している年金保険の内訳を見ると、「ブラジルの年金」と「わからない」がいずれも 32.0%で最多で、「国民年金」と「厚生年金」の公的年金保険がいずれも 20.6%でそれに次ぎ、「その他」(3.1%)と「民間の年金保険」(2.1%)は非常に少ない。

6-10. 公的年金に未加入の世帯主の未加入理由（問 21）



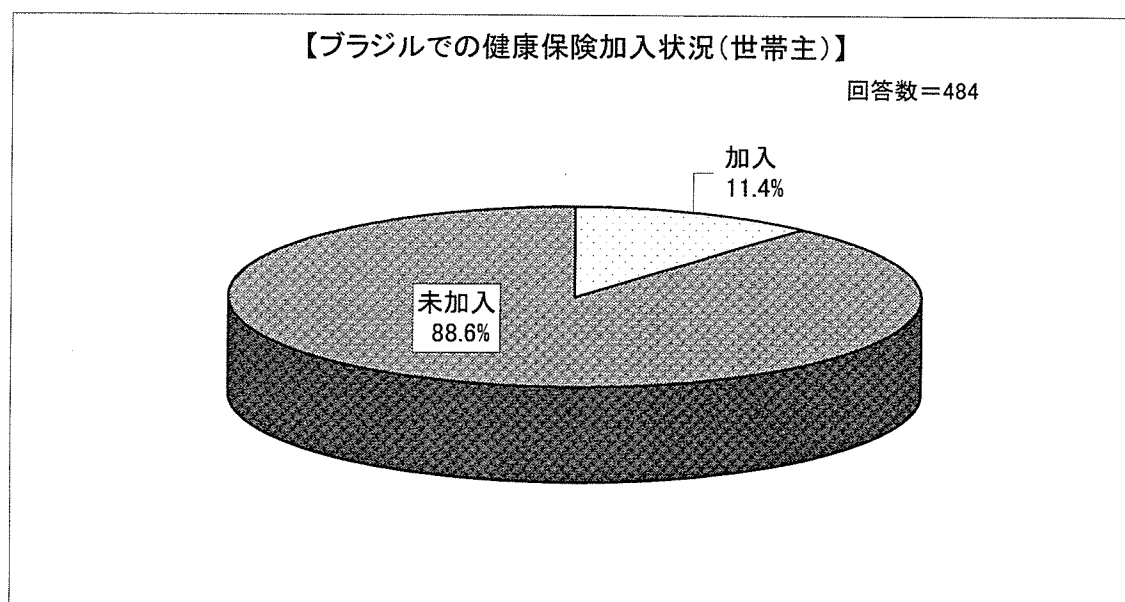
日本の公的年金保険（国民年金・厚生年金）に加入していない世帯主が挙げた未加入理由としては「日本の公的年金制度の仕組みがわからない」(39.3%)が最多で、「金銭的負担が大きい」(23.6%)と「近日帰国予定」(21.8%)がそれに次ぎ、やや離れて「その他」(9.6%)、「年金をもらえる資格が発生するまでの加入期間が長すぎる」(8.2%)、「事業所で加入させてくれない」(7.2%)、「途中で脱退した場合の一時金が少なすぎる」(6.4%)が続く。

6-11. 世帯主の雇用保険加入状況（問 22）



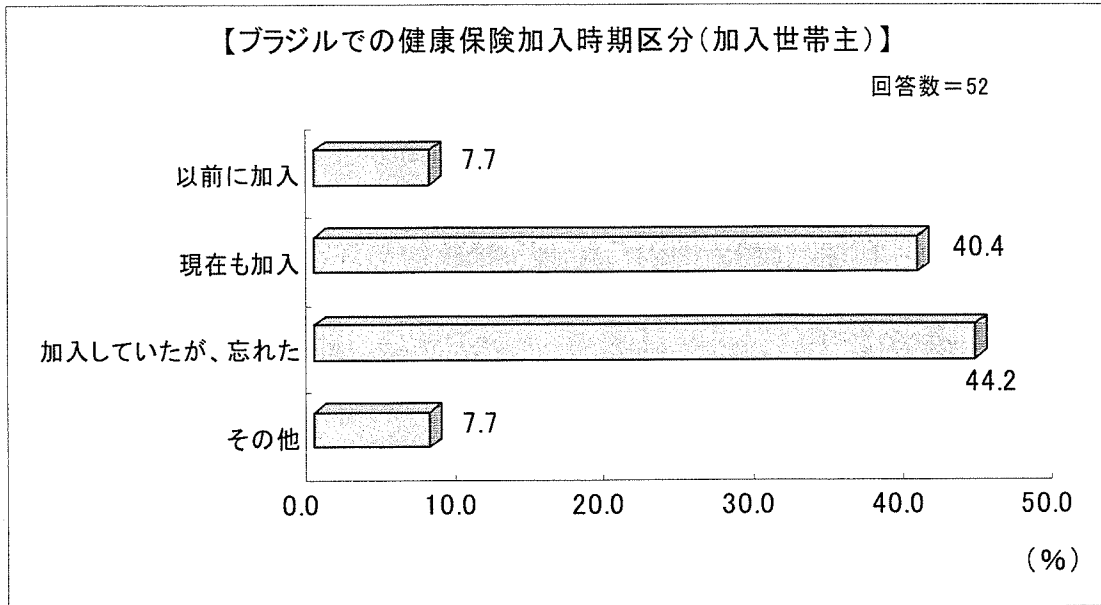
世帯主のうち、雇用保険に「加入している」者の比率は健康保険（37.8%）の場合よりも若干低いですが、年金（21.8%）の場合よりも高い 34.0%で、雇用保険に「加入していない」者の比率（42.3%）より若干低い。しかし、「わからない」が 23.5%を占めているので、実際は加入している者が加入していない者を上回っている可能性がある。

6-12. 世帯主のブラジルでの健康保険加入状況（問 23）



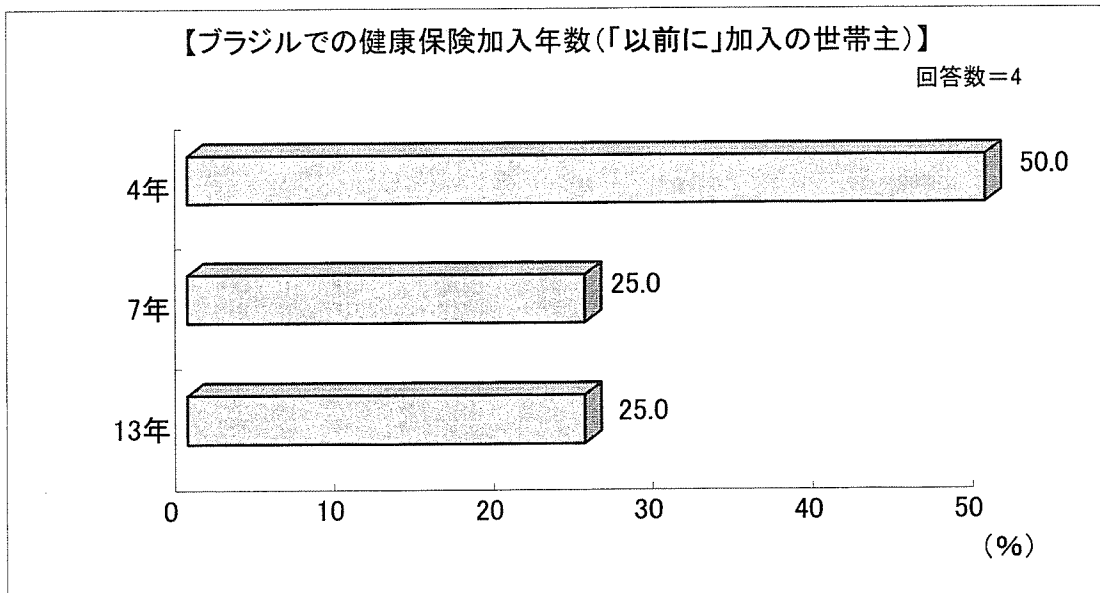
世帯主のうち、ブラジルで健康保険に「加入」していた者は 11.4%に過ぎず、日本での健康保険加入者比率（37.8%）よりも低いだけでなく、後に見るブラジルでの年金加入者比率（20.9%）よりも低い。

6-13. ブラジルで健康保険に加入していた世帯主の加入時期区分（問 23）



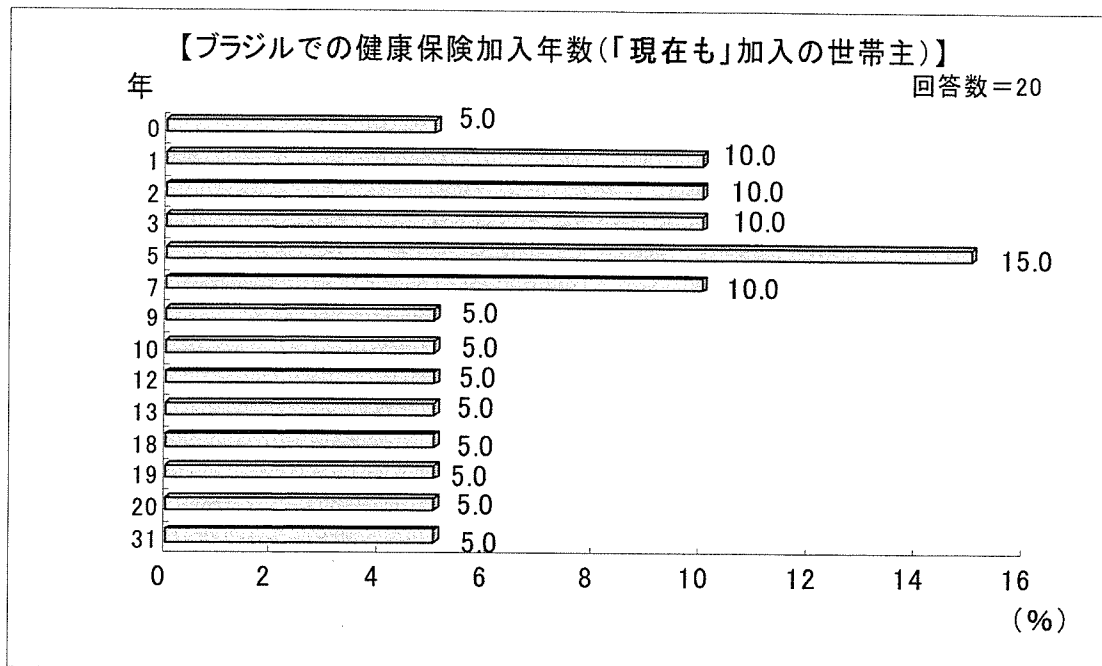
ブラジルで健康保険に加入していた世帯主は少ないので注意を要するが、加入時期区分を見ると、「加入していたが、忘れた」とする者が44.2%、「現在も加入」している者が40.4%、「以前に加入」していた者と「その他」のそれぞれが7.7%である。従って、加入経験者で加入時期を少なくとも部分的に覚えている者は全体の5%程度である。

6-14. ブラジルで以前に健康保険に加入していた世帯主の加入年数（問 23）



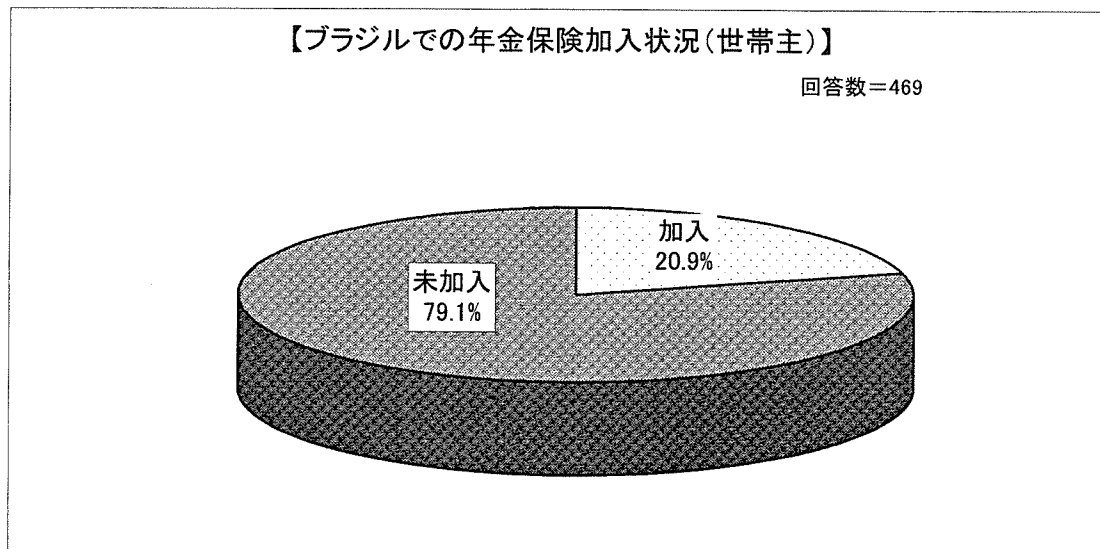
ブラジルで以前に健康保険に加入していた世帯主のうち、その加入開始年と加入終了年を正確に覚えている者はわずか4人しかおらず、そこから計算される加入期間は4年（2人）、7年（1人）と13年（1人）である。

6-15. ブラジルで現在も健康保険に加入している世帯主の加入年数（問 23）



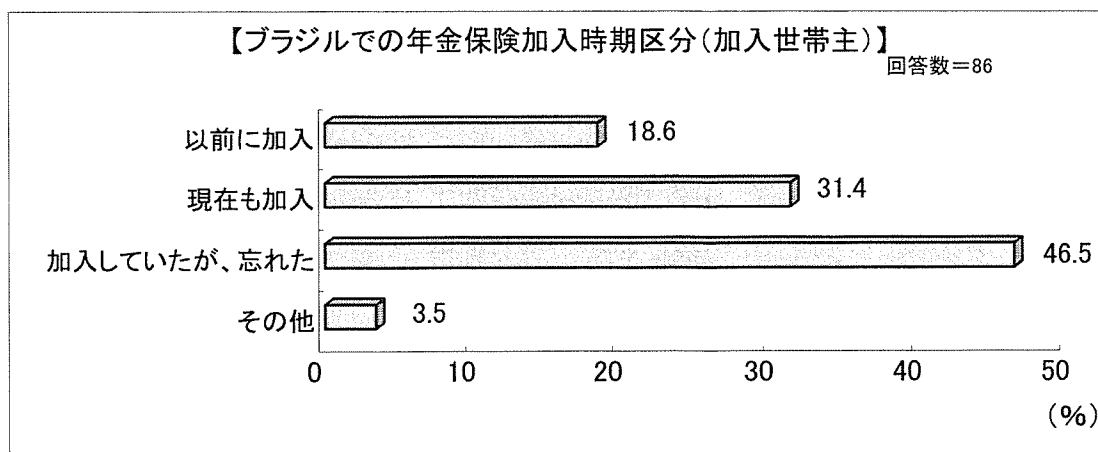
ブラジルでの健康保険に現在も加入している世帯主のうち、その加入開始年を正確に覚えている者は20人しかおらず、そこから計算される加入期間は5年（3人）が最多で、1年、2年、3年、7年がそれぞれ2人でそれに次ぎ、0年（1年未満）、9年、10年、12年、13年、18年、19年、20年、31年がそれぞれ1人で続く。

6-16. 世帯主のブラジルでの年金保険加入状況（問 24）



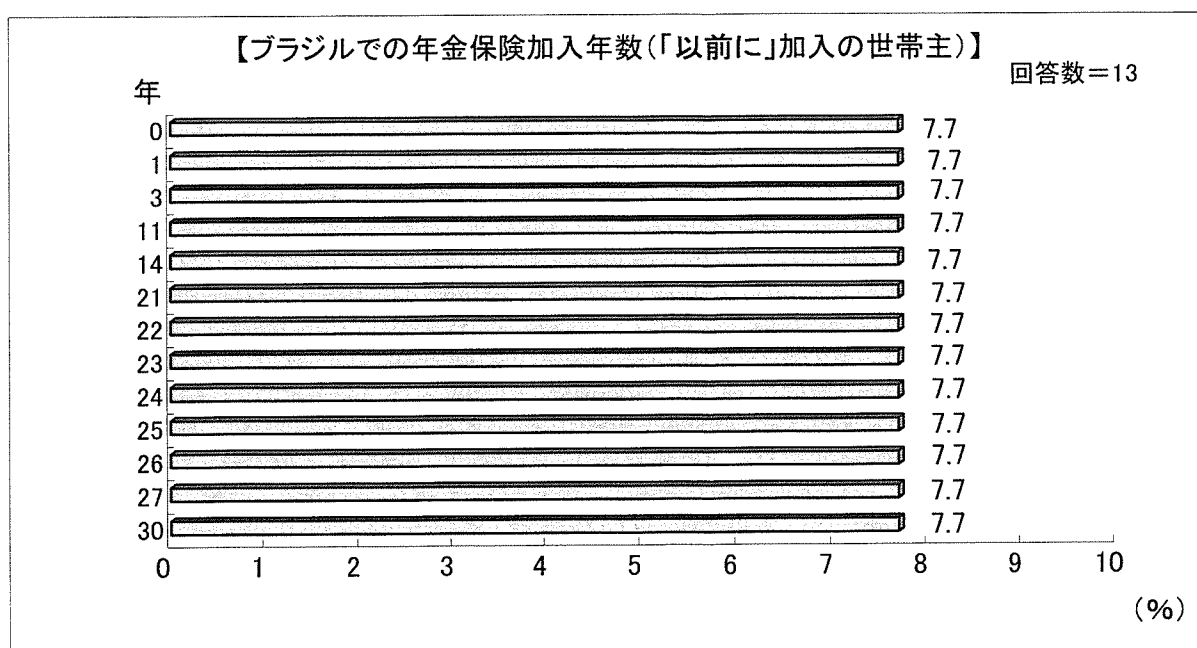
世帯主のうち、ブラジルで年金保険に「加入」していた者は20.9%に過ぎず、日本での年金保険加入者比率（21.8%）とほぼ同じ水準であるが、すでに見たブラジルでの健康保険加入経験者の比率（11.4%）よりも高い。

6-17. ブラジルで年金保険に加入していた世帯主の加入時期区分（問 24）



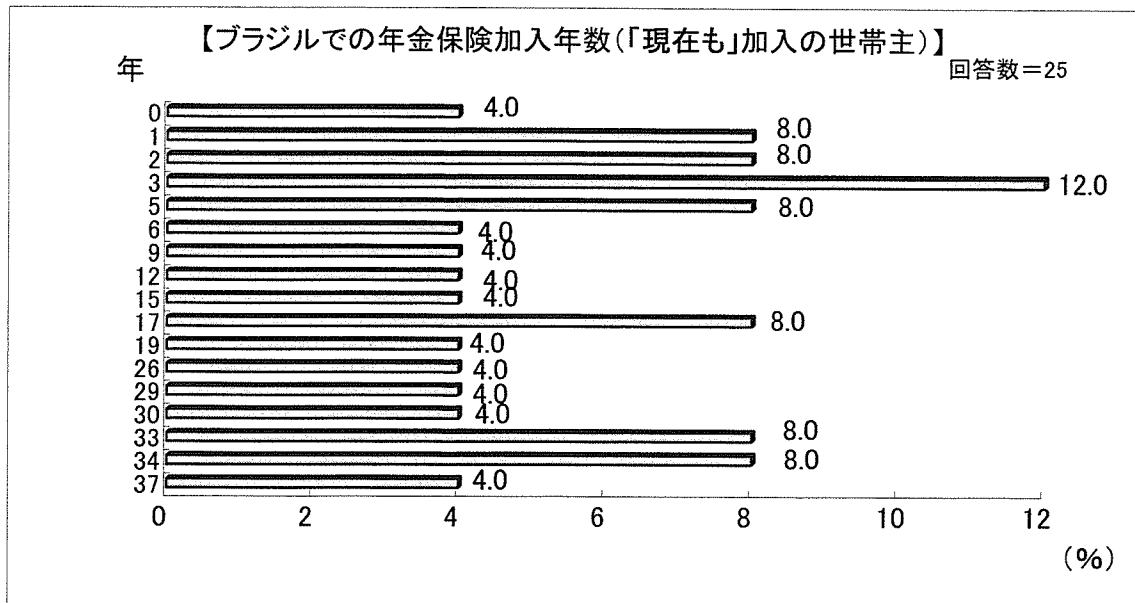
ブラジルで年金保険に加入していた世帯主はやや少ないので注意を要するが、加入時期区分を見ると、「加入していたが、忘れた」とする者が 46.5%、「現在も加入」している者が 31.4%、「以前に加入」していた者が 18.6%、「その他」が 3.5%である。従って、加入経験者で加入時期を少なくとも部分的に覚えている者は世帯主全体の 10%程度である。なお、問 24 ではブラジルの年金に現在も加入している者は 27 人であるが、問 20 では 31 人と若干異なる。

6-18. ブラジルで以前に年金保険に加入していた世帯主の加入年数（問 24）



ブラジルで以前に年金保険に加入していた世帯主のうち、その加入開始年と加入終了年を正確に覚えている者は実数としてわずか 13 人しかおらず、そこから計算される加入期間は 0 年（1 年未満）、1 年、3 年、11 年、14 年、21 年、22 年、23 年、24 年、25 年、26 年、27 年、30 年がそれぞれ 1 人である。

6-19. ブラジルで現在も年金保険に加入している世帯主の加入年数（問 24）

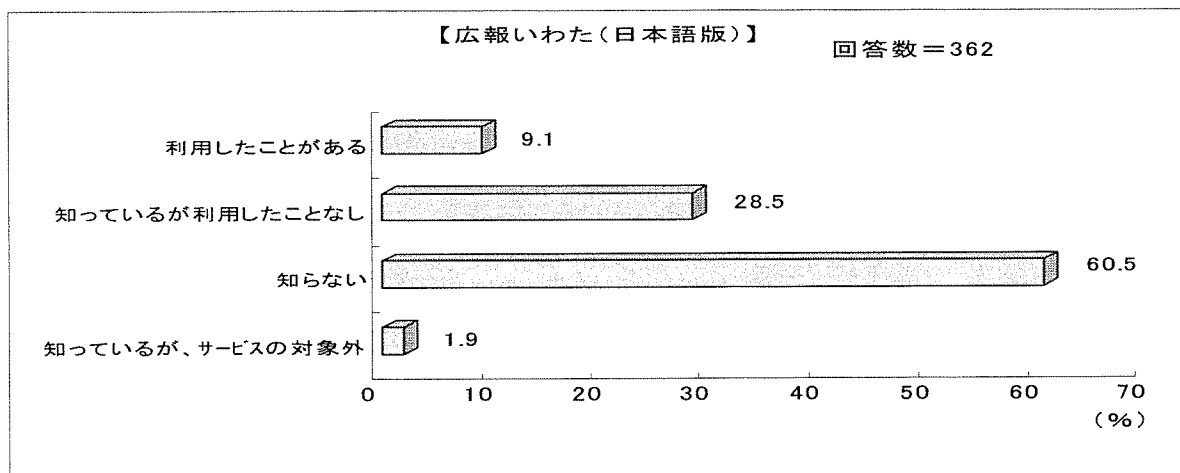


ブラジルでの年金保険に現在も加入している世帯主のうちでその加入開始年を正確に覚えている者は実数として25人しかおらず、そこから計算される加入期間は3年（3人）が最多で、1年、2年、5年、17年、33年、34年がそれぞれ2人でそれに次ぎ、0年（1年未満）、6年、9年、12年、15年、19年、26年、29年、30年、37年がそれぞれ1人で続く。

第7章 世帯主の磐田市行政サービスに対する意見

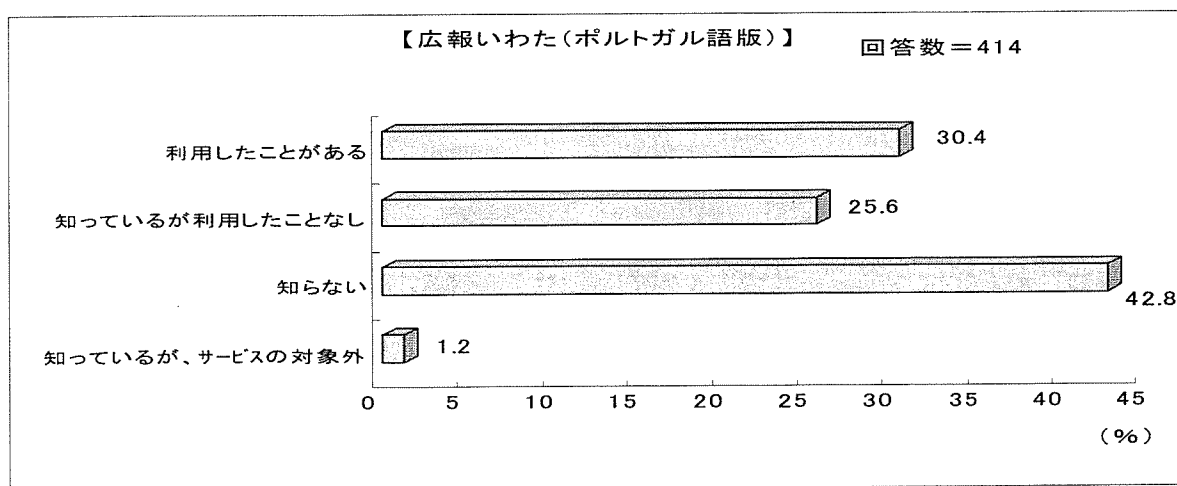
7-1. 磐田市における行政サービスの認知度

7-1-1. 広報いわた（日本語版）（問 25）



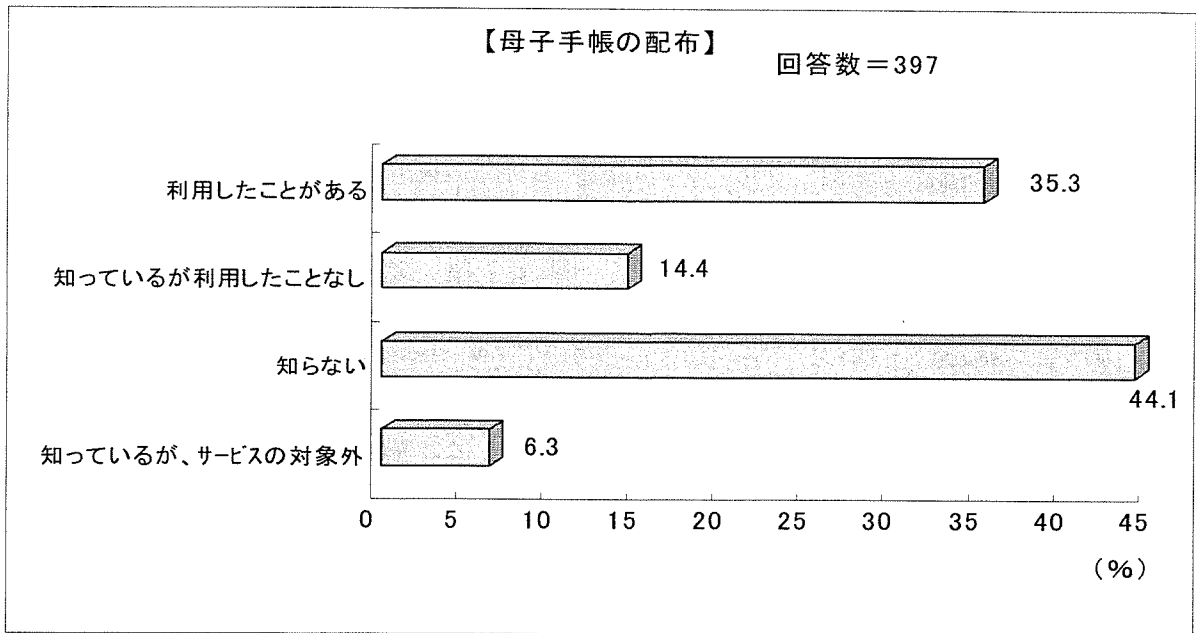
『広報いわた』（日本語版）は、毎月1日と15日に発行し、自治会を通じて各家庭に配布される情報誌である。市役所や図書館をはじめとした公共施設にも置いているにもかかわらず、日系ブラジル人の間では認知度が低く、60.5%の者がその存在を知らなかった。言葉の問題が大きいのであろうが、「知っているが利用したことなし」が28.5%、「利用したことがある」と回答したのは、1割に満たなかった。

7-1-2. 広報いわた（ポルトガル語版）（問 25）



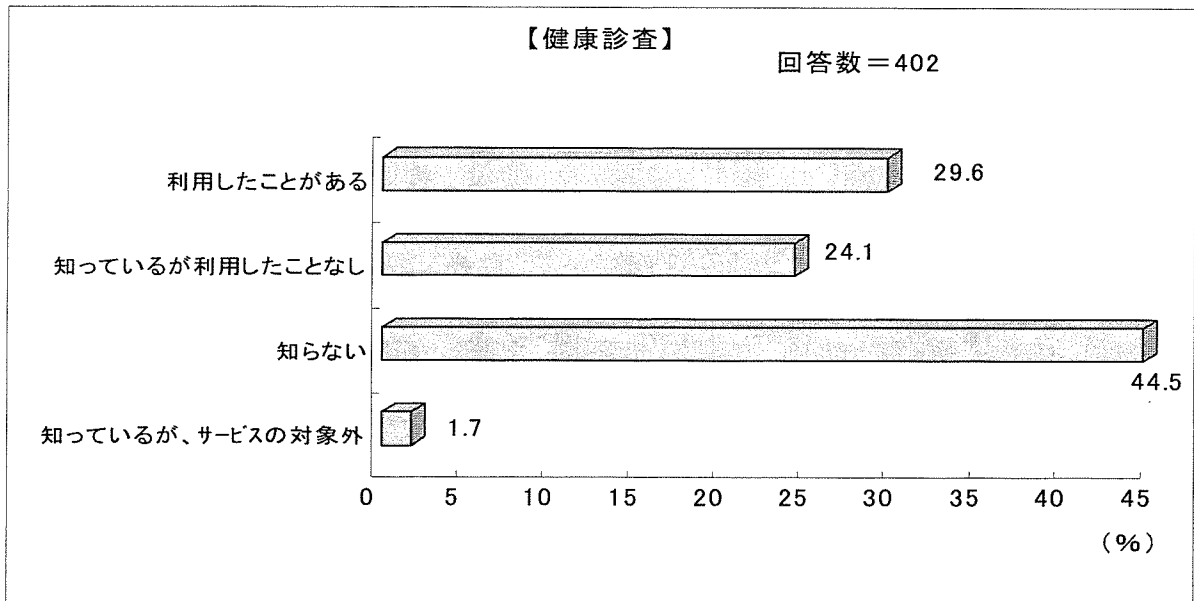
同じ『広報いわた』でもポルトガル語版となると、読者の数は増える。『広報いわた』（ポルトガル語版）を利用したことがある者は、30.4%となっている。しかし、その存在を知らない者がまだ42.8%もいることや、その存在を知っていても利用したことのない者が25.6%もあり、読者を開拓する余地はまだ十分にある。

7-1-3. 母子手帳の配布（問 25）



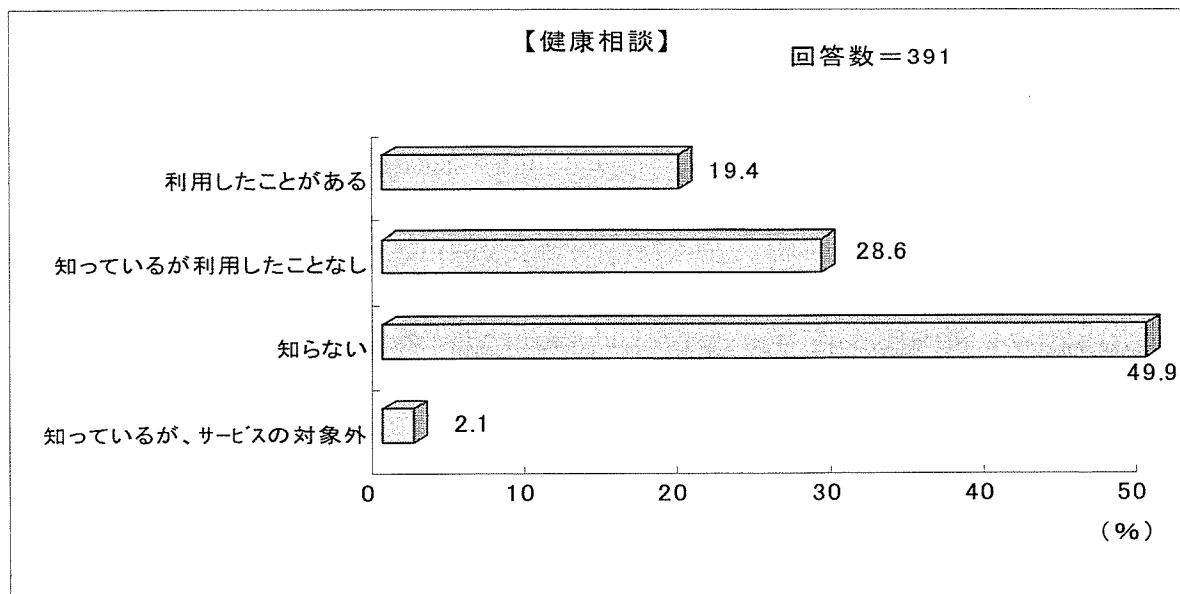
この設問は、女性を対象に聞いているわけではないので、母子手帳が配布されていることを知らない者が44.1%と高く出たものと思われる。母子手帳を利用したことがある者は35.3%であり、磐田市で妊娠・出産する者も少なからずいることが示唆される。

7-1-4. 健康診査（問 25）



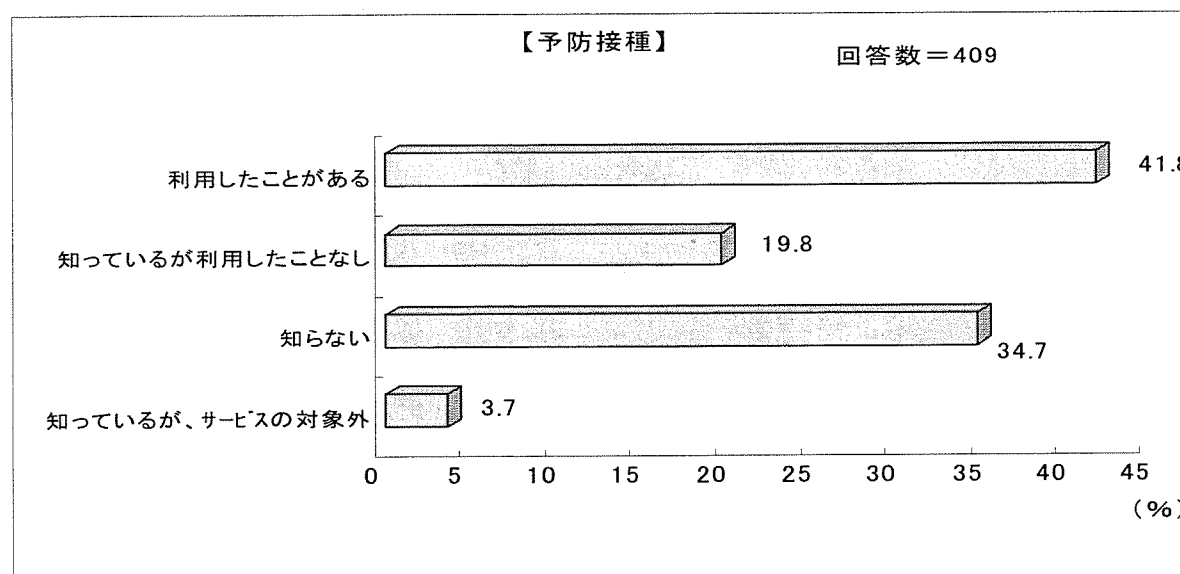
健康診査の認知度は低い。44.5%の者が、市が健康診査を行っていることを知らないと回答している。一方、健康診査を利用したことがある者は、29.6%、知っているが利用したことのない者が24.1%であった。

7-1-5. 健康相談（問 25）



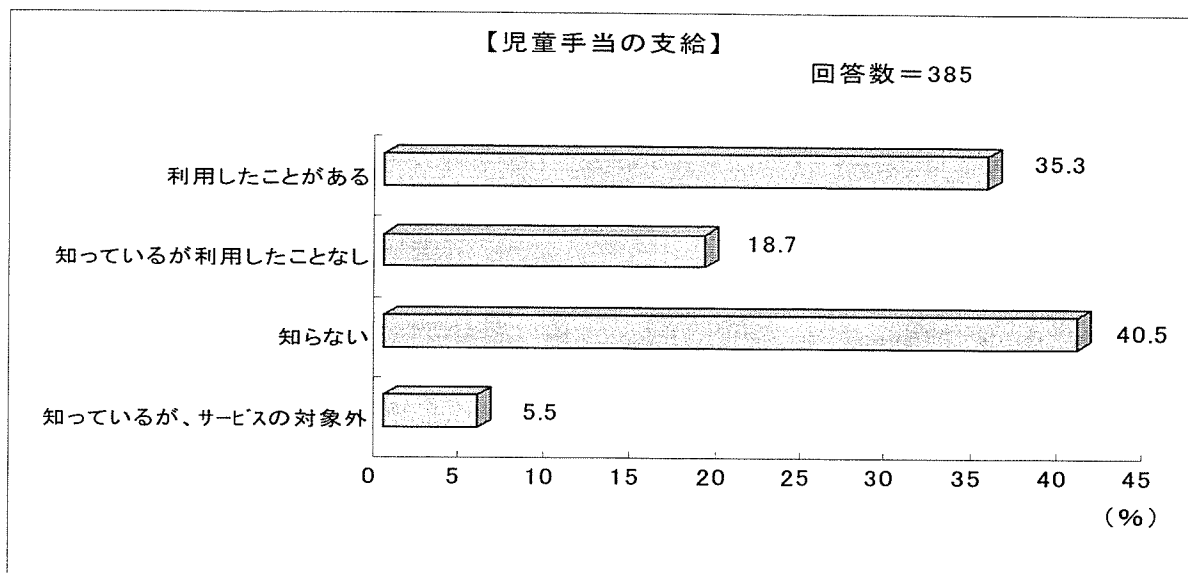
市の実施する健康相談も約半数の者（49.9%）が、知らないと回答している。利用したことがある者は、わずか 19.4%である。知っているが、利用したことのない者は、28.6%であった。言葉の壁が大きいためか、健康診査の方が利用者の割合が高い。

7-1-6. 予防接種（問 25）



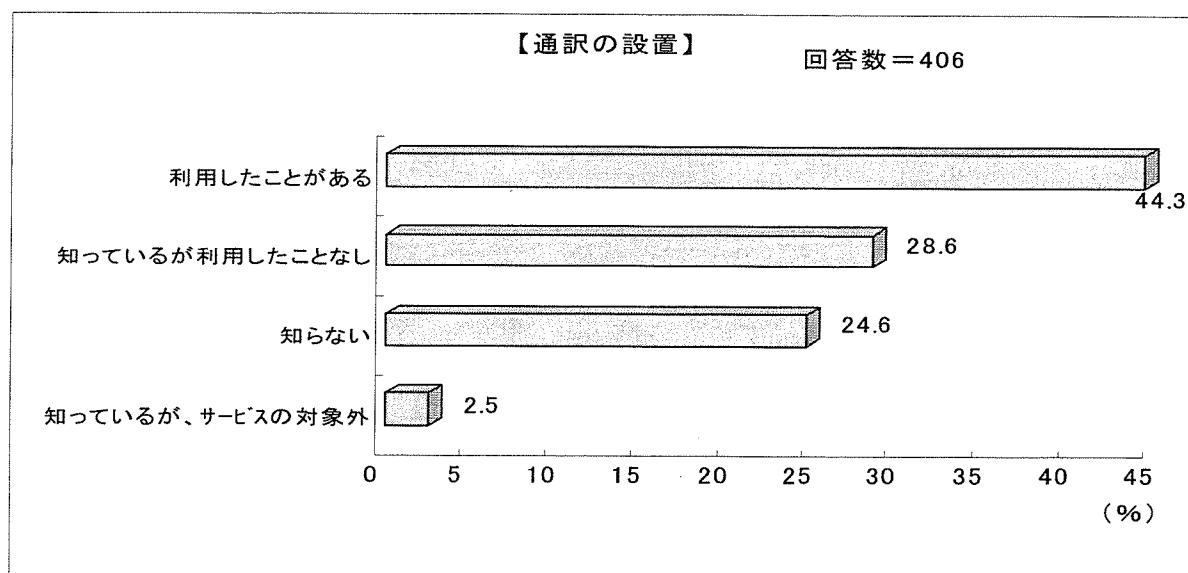
予防接種は、利用したことがある者の割合が健康診査や健康診断よりもかなり多い。利用者は、41.8%に達している。一方、予防接種が行われていることを知らない者も 34.7%にのぼった。予防接種の認知度については、子どもの有無の影響が大きいと思われる。

7-1-7. 児童手当の支給（問 25）



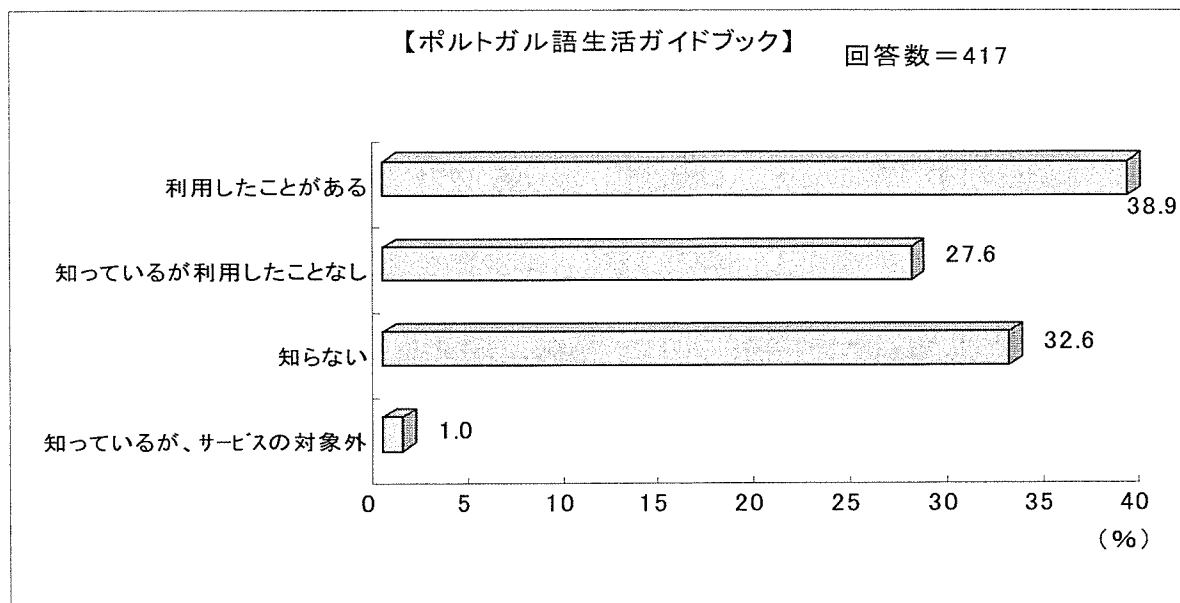
児童手当の認知度も低く、40.5%が「知らない」と回答している。しかし、児童手当を利用したことのある者は、35.3%、知っているが利用したことがない者が、18.7%であった。この問いでは、子どもがいない者に対しても聞いているので、子どもがいる者のみに対象を絞れば、利用したことがある者の割合はもう少し高くなる可能性がある。

7-1-8. 通訳の設置（問 25）



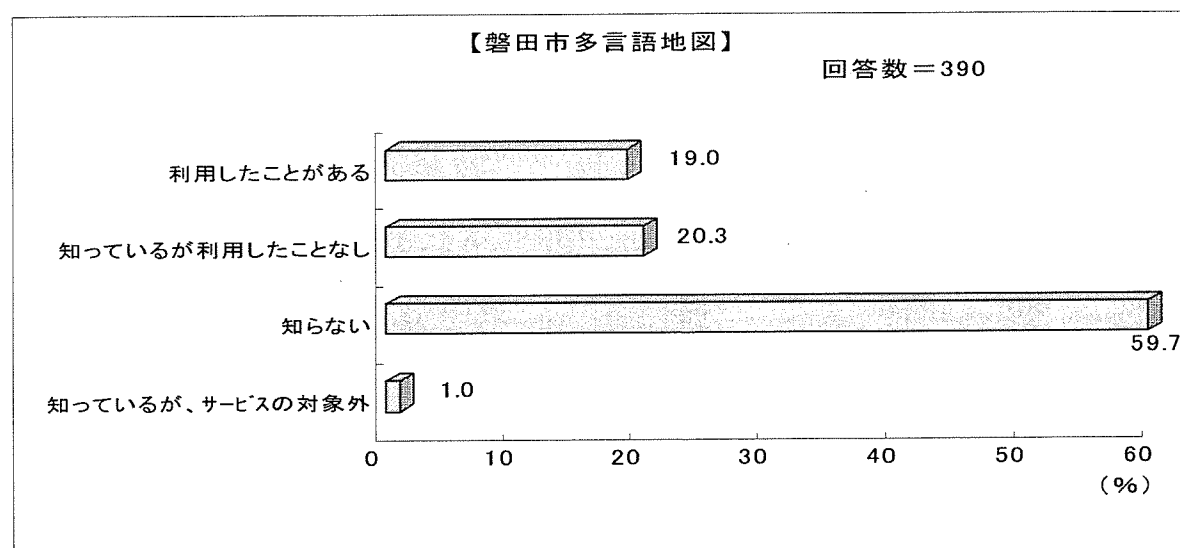
通訳は問 25 の設問の中では最も多く利用されている行政サービスである。通訳を利用したことのある者は、44.3%と、予防接種や母子手帳の利用者よりも高い。利用に制限のないより一般的なサービスであるということや、通訳自身が日系ブラジル人であることも利用度を高めている要因の一つかもしれない。一方、通訳の設置を知っているが利用したことがない者が 28.6%、通訳が設置されていることを知らないものが、24.6%であった。

7-1-9. ポルトガル語生活ガイドブック（問 25）



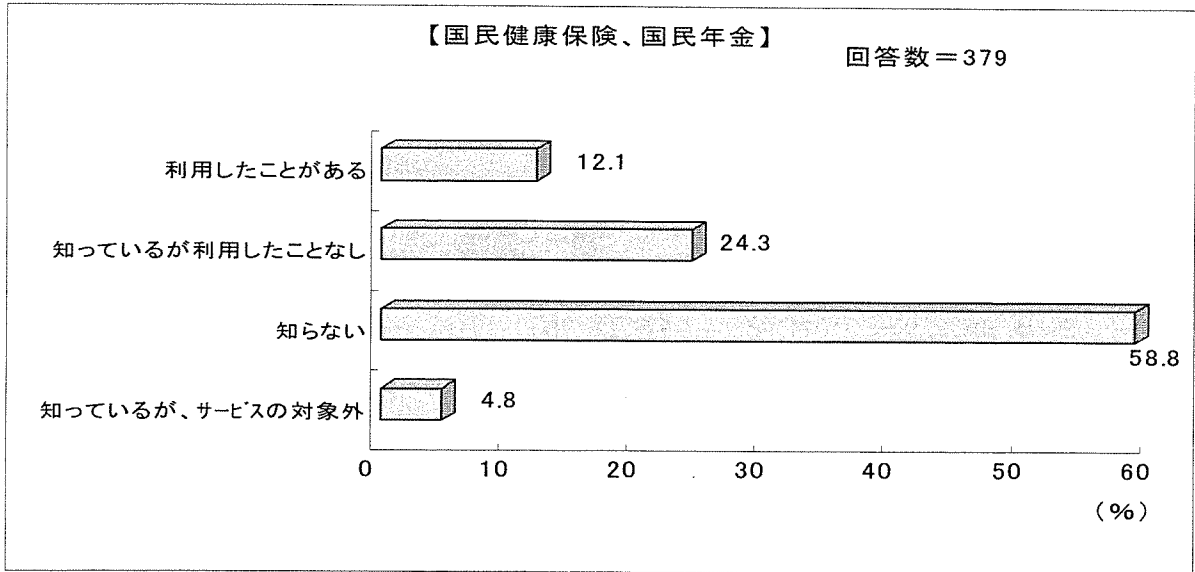
ポルトガル語生活ガイドブックも、行政サービスの中では利用度が高い方である。38.9%が利用したことがあると回答しており、これは通訳、予防接種に次ぐ高さである。それでもポルトガル語生活ガイドブックがあることを知っていても利用したことのない者が 27.6%、その存在を知らない者が 32.6%おり、より徹底した広報活動が望まれる。

7-1-10. 磐田市多言語地図（問 25）



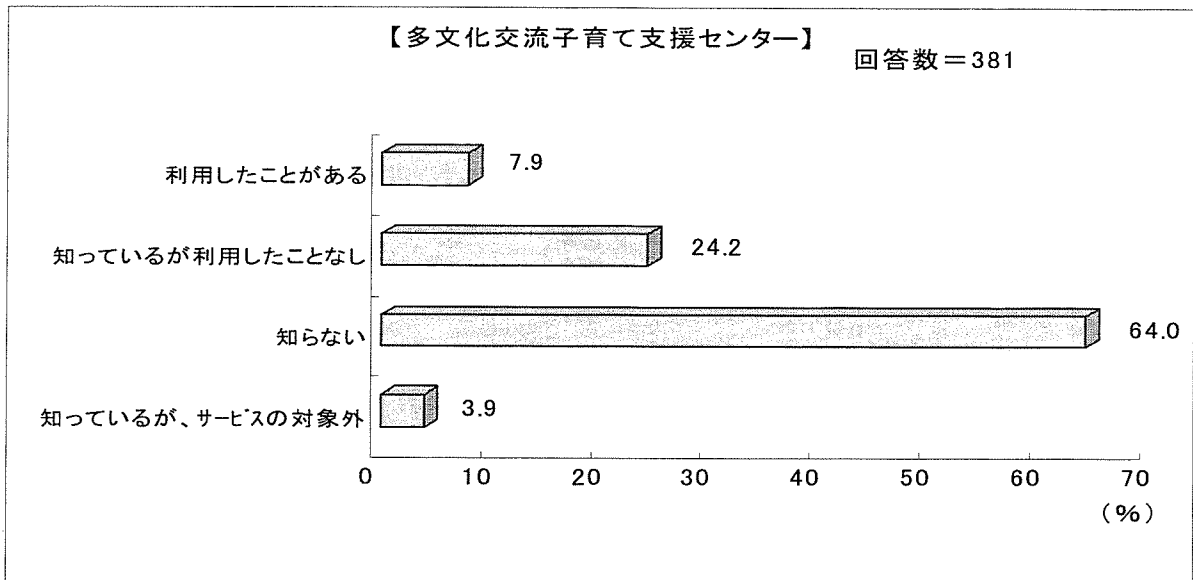
磐田市多言語地図は、「知らない」と回答した者が約6割にも達した。利用したことがある者は、わずかに 19.0%、知っているが利用したことがないと回答した者は、20.3%である。

7-1-11. 国民健康保険、国民年金（問 25）



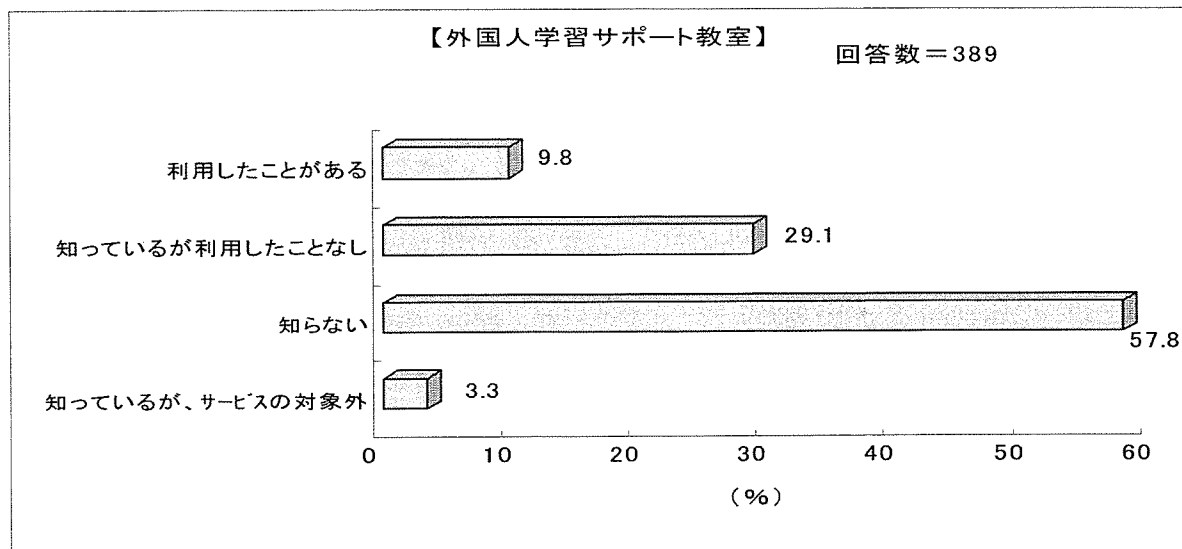
国民健康保険、国民年金を知らない者が約6割弱もいる。国民健康保険、国民年金を利用したことがある者は、わずか12.1%に過ぎない。知っているが利用したことのない者は、24.3%であった。

7-1-12. 多文化交流子育て支援センター（問 25）



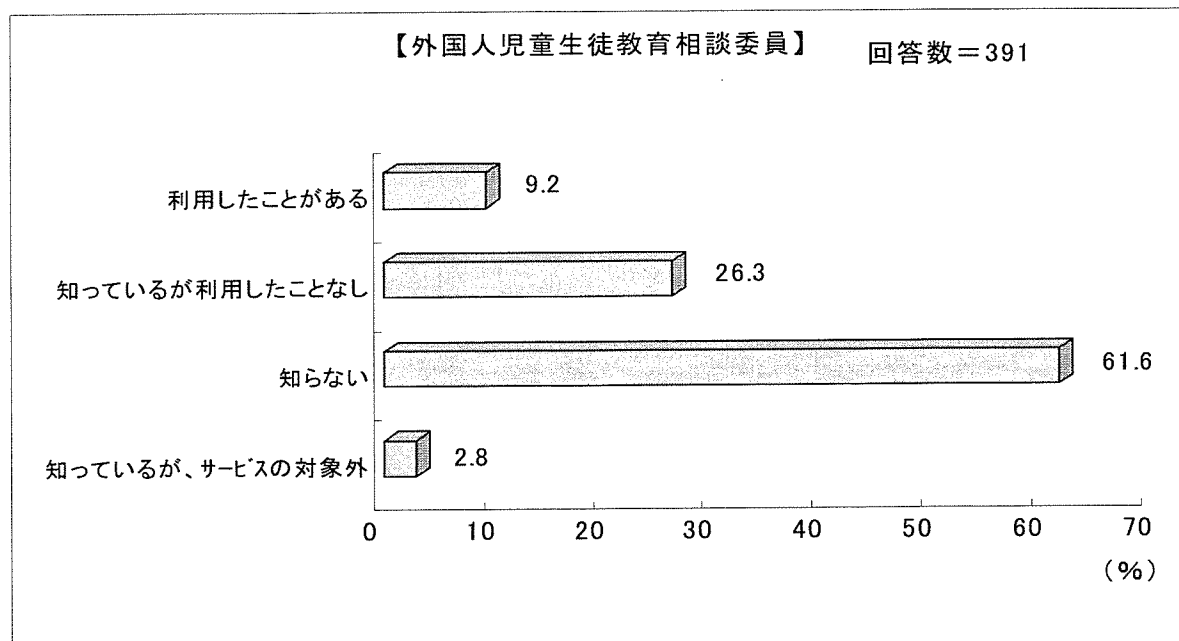
多文化交流子育て支援センターは比較的新しい制度である。利用したことがある者は、7.9%程度であるが、子どもがいる世帯に限ってみれば利用者割合はもっと高くなると思われる。知っているが利用したことのない者は24.2%であった。多文化交流子育て支援センターの存在を知らない者の割合は、64.0%にも達するが、来日したばかりの世帯が多いことや、センターの設置場所が限られていることも認知度が低い理由の一つと思われる。

7-1-13. 外国人学習サポート教室（問 25）



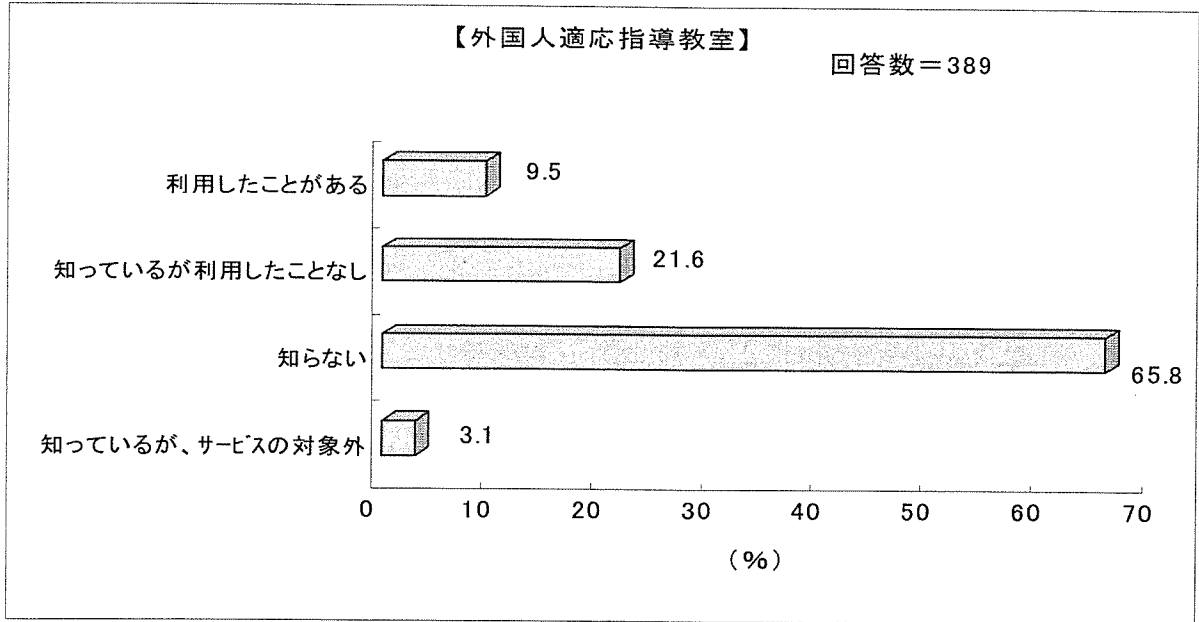
外国人学習サポート教室についても、認知度はあまり高くない。「知らない」と回答した者が、約6割弱、知っているが利用したことのない者が、3割弱である。利用したことのある者は、約1割に過ぎない。

7-1-14. 外国人児童生徒教育相談委員（問 25）



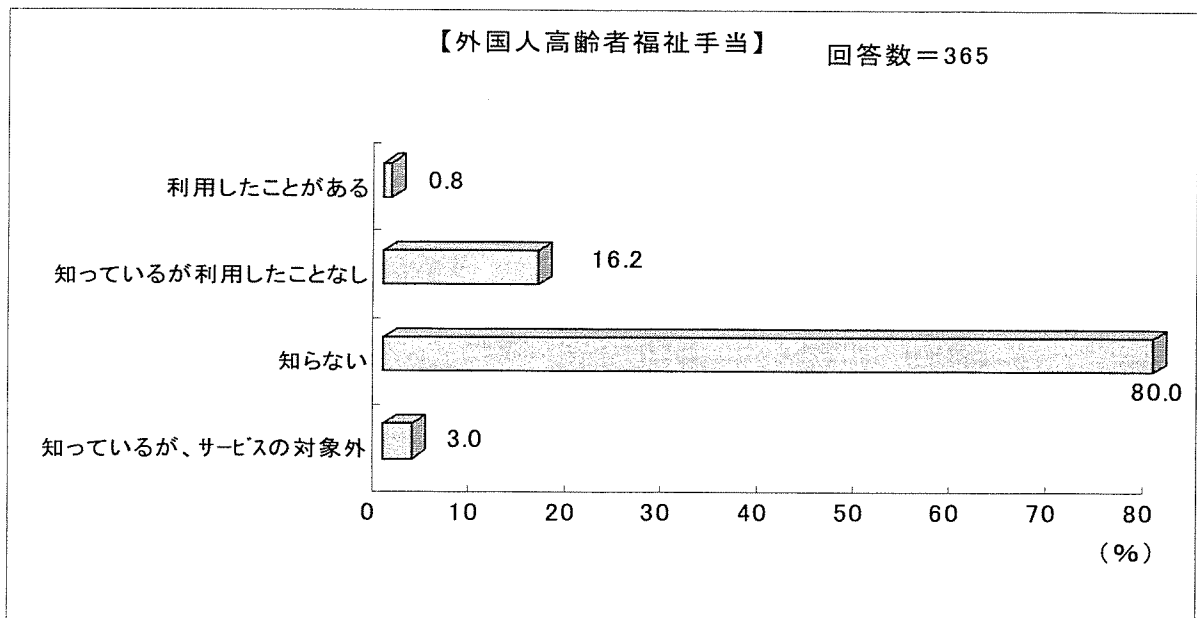
外国人児童生徒教育相談委員の認知度についても、外国人学習サポート教室と同様の分布となっている。利用したことのある者は1割弱に過ぎず、そのサービスが存在することを知らない者は、6割以上もいる。

7-1-15. 外国人適応指導教室（問 25）



外国人やその児童を対象とした指導に関する制度の認知度・利用度は、概ね、そのサービスの存在自体を知らないものが6割強、知っているが利用したことのない者が2割から3割、実際に利用したことがある者は、1割という分布を示している。この分布は、外国人適応指導教室についても同じである。

7-1-16. 外国人高齢者福祉手当（問 25）



外国人高齢者福祉手当に関しては、8割の者が知らないと回答した。磐田市に居住する日系ブラジル人の多くが若い世代であることを考えれば、当然の結果と思われる。